

令和3年2月15日の 高波に関する愛知県気象速報

目次

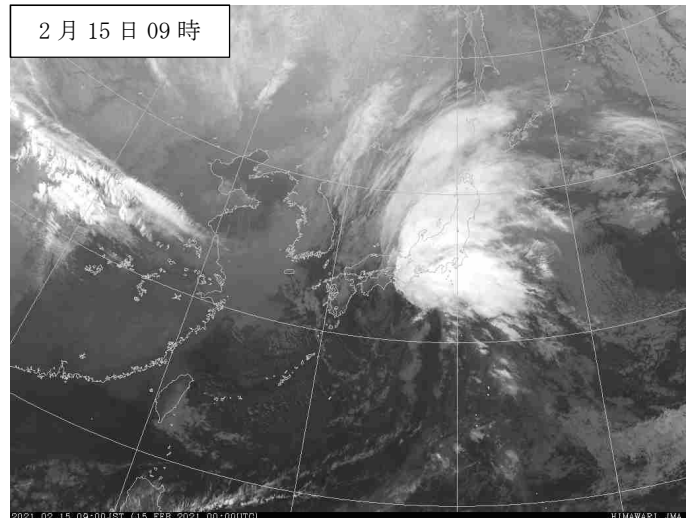
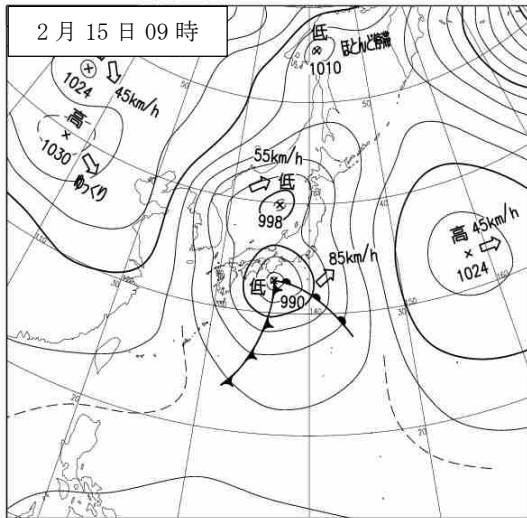
- 1 気象概況
- 2 高波の状況等
- 3 発表情報

令和3年2月17日
名古屋地方気象台

注：本資料は速報として2月15日11時までの状況を取りまとめたものです。
後日内容の一部訂正や追加をすることがあります。

1 気象概況

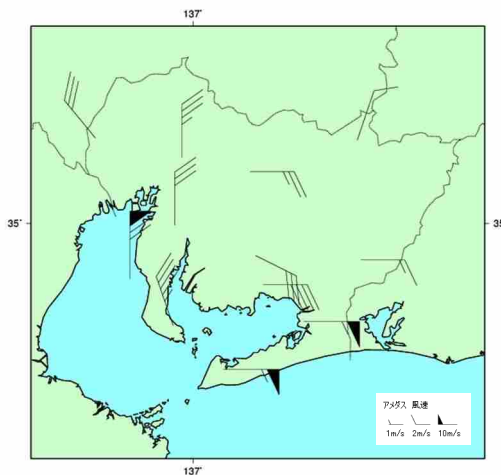
2月15日は、前線を伴った低気圧が急速に発達しながら東海道沖を北東に進んだ。このため、愛知県の海上では東又は北の風が強く吹き波が高い状況となった。



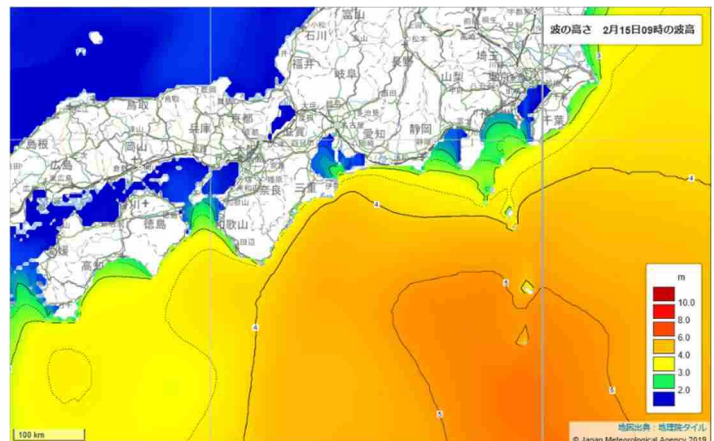
2月15日09時の地上天気図（左）と気象衛星赤外画像（右）

2 高波の状況等

愛知県の外海及び内海では低気圧の接近によりうねりを伴った高波となった。この状況に対して、常滑市・南知多町・美浜町・田原市に波浪警報を発表した。



アメダス最大風速分布図
(2月15日 00時～11時)



波浪実況図（2月15日09時）

波の高さを等波高線で示した。等波高線は、1メートル毎の実線と0.5メートル毎の破線を表示した。破線は4メートル未満の領域のみ表示した。波の高さは「有義波高」で示した。

[有義波高について]

ある地点で連続する波を1つずつ観測したとき、波高の高い方から順に全体の1/3の個数の波を選び、これらの波高を平均したものを有義波高という。例えば100個の波が観測された場合、高い方から33個の波を選びこれらの波高を平均したものである。熟練した観測者が目視で観測する波高に近いと言われ、気象庁が天気予報や波浪図で用いている波高や周期も有義波の値である。

ただし、その利用に当たっては、有義波高よりも高い波を含むことに注意が必要である。例えば、100個の波を観測した中には有義波高の約1.5倍の最大波が、1000個の波の中には約2倍もの高さの最大波が統計学上見積もられる。

